

早稲田大学 社会科学部 世界史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式
試験時間	90分
特徴・その他	昨年度と同様の大問4からなるが、難易度はやや軟化。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	ビザンツ帝国と西欧封建社会	空欄補充は記述式はやさしいが、記号式の選択肢の中には受験生レベルではめったに目にすることのないもの(例：問5のゲピート人・アレマン人、問9のテオドラなど)がある。選択問題を確信をもって答えるのは難しいが、ここは正答に確信をもって、弱気になってあまり迷わない方がいい。	標準
II	イスラム勢力侵入以降のインド史	空欄補充は記述式はやさしい。記号式で一連の戦いを入れる問3は、空欄③④⑤がマイソール戦争・マラータ戦争・シク戦争の順に入るのがわかれば簡単。②のブクサールの戦いは難題だが、結局それを知らなくても正解可能。問6のライヤットワーリー制、問7のラーム=モーハン=ローイ、問8のメーラトは早大の過去問を丹念にやった受験生にとっては楽勝だったはず。問10のインド国民会議の開催地も細かいようだが、意外な頻出項目である。	やや難
III	立憲政治の展開と人権	全体としてはとくに難しい問題ではないが、正誤判定問題の一部は非常に細かい。問5のaでは三部会の第三身分代表の定数が300ではなく600が正しい。問10のcのワグナー法は1934年ではなく1935年。eの日本国憲法は1945年ではなく46年公布。前文の「恐怖と欠乏…」は不戦条約ではなく大西洋憲章(英米共同宣言)からの引用。	標準
IV	冷戦と第三世界	空欄補充の記述式3問はやさしいが、選択問題の大半は手ごわい。問5の年代配列は米州機構の年代に自信がないと失敗する。問6は五原則ではなく十原則が正しい。問8のガーナ関係はとくにいやらしい。dのダホメ王国は現ガーナではなく現ベニンにあった。	難

〔総合コメント〕

空欄補充の記述式問題は基礎的なものがほとんどで、ここでの失敗は許されない。記号式選択問題の正誤判定は、例年のこととはいえ難しさが目だった。本年度の早大世界史はアフリカ史からの出題が目をつけたが、本学部も難題が出た。アフリカ史は教科書で大雑把に学習しておけばなんとかなるといった風潮が見られるが、その考えは早大では命取りにつながる。植民地化以前の王国の版図と現況の関係は要注意である。また、正誤判定の選択肢の「正しい文章」の内容に、細かいものや一般的な受験勉強ではカバーしきれないものが多くあった。